

授業概要

日本の「家族」は、社会状況に影響を受けながら時代とともに変化してきたが、その一方では、空間的多様性を持ちながら存在してきた社会集団である。そこで、家族の定義や家族に関する概念・基本的な知識を踏まえ、“時代”および“空間”をキーワードとして、多様な家族の姿を捉えていきたい。そして、現代日本の家族と結婚に関する資料を用いながらその特徴や課題について講義する。

授業計画

第 1 回	講義のねらいと家族の定義
第 2 回	家族研究の意義と家族の存在意義
第 3 回	家族の普遍性と家族研究の可能性
第 4 回	時代を映す家族の姿（1）——「家」制度
第 5 回	時代を映す家族の姿（2）——選択的夫婦別姓
第 6 回	時代を映す家族の姿（3）——核家族と直系家族
第 7 回	時代を映す家族の姿（4）——単身世帯の急増
第 8 回	空間的多様性を見せる家族の姿（1）——婚姻慣行
第 9 回	空間的多様性を見せる家族の姿（2）——相続慣行
第 10 回	空間的多様性を見せる家族の姿（3）——大家族と隠居制家族
第 11 回	現代日本の家族（1）——ジェンダーと同性婚
第 12 回	現代日本の家族（2）——女性の働き方に関する意識と実態
第 13 回	現代日本の家族（3）——未婚化と結婚支援の関係性
第 14 回	現代日本の家族（4）——自治体における結婚支援の特徴と課題
第 15 回	講義のまとめ

到達目標

- ・ 家族の存在意義や家族の普遍性について客観的に捉えることができる。
- ・ 日本の家族における時代的変化と空間的多様性を把握してその概要を説明することができる。
- ・ 現代日本の家族と結婚に関する特徴や課題を指摘することができる。

履修上の注意

私語、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為、受講中にすべきでない行為等については減点となる。講義開始後 30 分までを遅刻とし、それ以降については欠席とみなすが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合には考慮する。
また、家族論Ⅱを履修済みの学生も履修は問題なく、可能である。

予習・復習

参考文献や各種資料などから、取り上げるテーマやキーワードについて簡単な予備知識を備えておく。その日に学習した内容を、前回までの内容とのつながりを意識しながら振り返り、整理しておく。

評価方法

成績は、課題レポートと平常点を総合的に勘案して評価する。
配分は、課題レポート 50%、受講態度や取組姿勢等 25%、リアクションペーパーや作業プリント 25%である。

テキスト

プリント資料を配付（配信）する。
参考文献：清水浩昭編著、2008、『家族社会学へのいざない』岩田書院。
参考文献：施利平、2012、『戦後日本の親族関係』勁草書房。